



今年の秋は連休のたびに悪天候です。先日の台風では、長野県内でもこれまでに経験したことのない被害に見舞われた地域があります。映像からは、想像を絶するような現場の過酷さが伺えます。日本人同様、多くの外国人も被災したと思われませんが、県では15言語で対応する相談窓口を開設したとのこと。日本語ができないことで支援の手が行き届かないということがないよう、体制が整備されつつあるようです。命に国籍は関係ありません。被災した方々が早く通常の生活に戻れることを願っています。

「外国由来小学生のための進学説明会」開催のお知らせ

外国由来の小学生とその保護者を対象にした「外国由来小学生のための進学説明会」を11月9日、なんなんひろばで開催します。

小学生の年齢で来日したり、日本で生まれて育った子どもたちとご家族でも、意外と中学校生活については知らないことが多いものです。「知らなかった!」と後で困ることがないように、という思いから、昨年度から小学生とその保護者に向けて説明会を開催しています。

内容は「日本の中学校生活について」。日本の学校制度や仕組みについて、また、部活動や定期テスト、行事、集金やPTAのことなど、日本人にとっては“当たり前”の日本特有の学校文化などについてもお話しします。

通訳の方がいるので、わからないことや不安なことには、その場で親御さんがわかる言葉で説明してもらえます。お子さんが中学校進学を控えている方はもちろん、低学年児童の保護者の方にもおすすめします。

記

日時：11月9日（土）午前10時～

会場：なんなんひろば

参加申込方法：松本市教育委員会学校指導課より各小学校に通知が配信されます。

担任の先生を通じて申し込んでください。

外国にルーツがある児童のご家族は誰でも参加できます。

学校の先生方からご覧になって心配なご家庭には、ぜひ、参加をおすすめください!

申込〆切：11月1日（金）

お問い合わせ：松本市子ども日本語教育センター 電話：25-7143



日本語指導が必要な児童生徒数・5万人越え 過去最高に！



日本国籍の子ども達も増加傾向

平成30年に文部科学省が行った調査によると、全国の公立小中高校などで日本語指導が必要と判断された外国由来の児童生徒数が5万人を超え、過去最高を記録しました。

実に、50,759人が支援を必要とし、前回調査（28年度実施）と比べると、6,812人の増加（15.5%増）で、明らかに増加傾向にあります。さらに10年前と比較すると、なんと1.7倍の右肩上がりです。

また注目すべき点は、“外国籍”の子どもたちだけでなく、“日本国籍”の子どもも増えていることです。前回調査より662人増の10,274人です。さらに、このうちの10%の子どもたちは、家庭内言語が日本語だということも調査で明らかになりました。単純に「日本語指導が必要な子＝外国籍、あるいは母語が外国語」とは言えず、両親のどちらかが日本人だったり、また日本で生まれ育った子どもたちでも日本語指導が必要だという実態が浮き彫りになりました。

日本で生まれ育ったのに、日本語指導が必要って??

「日本で生まれ育ったのに、日本語がわからないってどういうこと??」。先生方の中にも、このような疑問を持たれる方がいらっしゃるかと思います。



集団生活の中で生活のための日本語はそれなりに身に付け、日常生活は送れている、いわゆる“おしゃべりには困らない”子どもたちです。しかし、彼らの発話や行動を注意深く観察してみると、「あら?」と思う部分があるかもしれません。例えば、「いつも決まった表現ばかり使う」「たまに会話がちぐはぐになってしまう」「先生の指示を聞いてではなく、友達の真似をして行動している」など。

また小学3、4年生になって、勉強がわからなくなってしまう子どもたちも多いです。中学年ともなると、学習内容が具体から抽象へ、それに伴い学習で使う言葉が難しくなります。“おしゃべりには困らない”子どもたちにとっては、ハードルが一気に上がります。

思考をつかさどる根幹となる言語が危うい…、つまり物事を深く考え論理的思考をするための言葉を持たない子どもたちが増えているということです。

勉強につまずいている外国由来の子どもたち。「本人の努力が足りないからだ」「家庭の協力が得られない」で片付けず、その原因を探って適切な支援をすることが、今求められています。